新眞婦人

三月號

第八十三號

大正二年四月二十六日第三種郵便物認可
大正九年二月二十六日印刷納本
（大正九年三月一日發行（毎月一回一日發行）

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

診察毎朝及毎夕、但祭日及日曜の他
院長診察月、金、木午前及木午後六時
林、峰間、兩副長は目下當院に在勤
東京麴町三番町三十番地（市ヶ谷見附内）
電話 番町（六二一番 五一六番）

東洋内科醫院

院長 醫學博士 高田畊安

電話ちがさき二番

南湖院

神奈川縣茅ヶ崎海濱（從停車場半里）
河野、高橋兩副長は目下當院に在勤
院長診察土曜日午後入院診後應需
診察毎日午后、但祭日及日曜の他

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

新眞婦人

三月號　八十三號

婦人社會問題講演會

は豫定の如く、二月十四日午後六時より、神田美土代町の青年會館で開會しましたが、幸に天氣都合もよく、聽衆二千餘名滿員の盛會で御座いました。

會は高木ふよ子氏の開會の辭を以て始まり、

人としての日本婦人の價値を論じて（鷲尾よし子氏）△婦人と社會問題（西川文子氏）△ラッセルの結婚論に就て（宮田修氏）△眞の敎育（三角錫氏）△婦人參政權運動（奥うめお氏）△所感（塚本なか子氏）△家庭の改善は獨り女子の責任のみにあらず（吉岡彌生氏）△惡太郎の母（原胤昭氏）△子供の勞働に就て（遠藤淸氏）△女子と社會問題（文章）與謝野晶子氏（代讀）

右の順序で登壇、十時半、無事に閉會致しました。

右講演の筆記は全部、次號に掲載します。

尚ほ開會の準備其他に就ては、特に早川幸登氏、高木ふよ子氏、鷲尾よし子氏、紀室金女氏の御盡力にあづかりましたいつも講演會の後には多少の反響はありますが、今回ほど多くの反響のあつた事はありません。當日十數名の入會申込があり、其後手紙ハガキでの申込みも多く、『あんな愉快なお話を伺つた事は近頃にない會合でした、今後力の限り盡させて欲しい』と云つて下さる方も數名ありました。

當日若し雨天か雪降りだつたら困ると思ひましたので、豫かじめ本社賛助員名生昌氏に百圓の寄附をして頂いておきました處、幸にも盛會でしたので、其全部を基本金とさせて頂く事の出來たのを厚く感謝いたします。

チラシ三萬枚の印刷費三十四圓はやはり本社賛助員古谷榮一氏の厚意で寄附して頂きました。其の他原胤昭先生、宮田修先生が特に本會の趣旨に御賛成下さいまして、金五圓づゝの御寄附をして下さいました。御禮をしなければならぬ、兩先生から、却つてそんなにして頂きました御厚志をありがたく存じました。吉岡彌生先生が十圓、竹内茂代先生が五圓入場券を御買下さいました、いづれも深謝致します。

本會の爲めに御盡力被下つた、高木富代子、早川幸登子、紀室金女、鷲尾よし子其他の諸姉に感謝致します。（此の頁に會の寫眞を入れる筈でしたが、手違になつて間に合ひませんでした）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

婦人と社會問題

西川文子

婦人社會問題研究會

婦人社會問題研究會は、昨年の六月起しましたのですが、私が多忙であつたり他の事に興味をもつて居りましたので、雜誌の方へは其つもりで書いては居りましたけれど、會の方はまだやうしませんでした。昨年の十一月になつていよ〳〵此の會の必要を感じ實現したいと云ふ心持ちになつて、十二月の始に、今日の會を取定めておいたのでムいます。最初私は十八二十人でも同志婦人で、婦人社會問題研究會を組織して專問の先生を聘して其講演を訊く事にすれば、私共が一月や一年或は數年かゝつても解らない事をも一席のお話で理解する事が出來て大變都合がいゝと思つたのです。つまり自己の勉強の機關にしやうとて思いついたのですが、それと同時に會員各自が特に興味をもち必要と思ふ事を研究した結果を發表し宣傳し、實際運動にしたい、さうして社會に對する奉仕的活動をするのをも此の會の目的にしたいと思つたのです。それには同志婦人の小集會を月々開きたいと思つたのですが何事でも初める時は、これまで多少社會に知られてゐる人々を語り合ふか、自己の周圍の人が集まる位で、それも一度よりは二度、三度となると好奇心で集まつて來る位の人は漸次減つて行くのが常ですから、まだ私共の知らない社會に斯問題に對する熱心な研究希望家、所謂同志婦人が澤山おありになる事と思いましたので、さう云ふ方々に入會して頂きたいと云ふ心もちで、先づ第一番に發會式とも云ふべき第一回講演會を開く事にしたのでムいます。今後はかうした大會は年に一度か二度しかしないつもりですが、初めの志

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

である小集會は月々開いて互に研究したいと思いますどうか皆様の御入會を願います。これ迄にも地方の方で、入會を申込んで下さいました方が厶いましたが、遠い地方の方や小集會に出席されない方でも、同志の方は入つて欲しいと思います。

生活改善の聲

昨年の暮から今年にかけて、生活改善の展覧會や其講習會があり、日常生活の改善が叫ばれました。婦女新聞社の主催の下に結婚改善の講演會が一度ならず二度三度まで、開かれたり、女子の高等教育請願がされました。

高女同窓聯合會から、虚禮廢止が叫ばれ新婦人協會から、花柳病男子の結婚の制限や、治安警察第五條の修正、卽ち女子が政治上の結社、及び政談演說傍聽禁止を解く請願がされました。

其の他、松宮女史の日用品普及會等、さま〴〵の會が發起されました。これ等は皆要するに個人として或は社會的に家庭に於ての婦人の地位の進歩向上を計つてゞないものはありません。

今から十數年前に男子側に普通選擧の聲が高く、其が主として當時の社會主義者によつて叫ばれました時婦人側からも又治安警察法第五條の修正請願が今井歌子、河村春子、遠藤淸子氏に依つて提出されました。私も可成の共鳴を感じてゐたものでありますが、私の夫なども普通選擧々々で普通選擧にさへなれば御飯も入らない位に思つて彼方此方演說して步いたり、請願用紙に調印を求めて步いたものでムいます。それがやつと此頃機運が參りましたものか、一般に喧しく叫ばるゝ樣になつたのです、で其影響で此頃又婦人側にも婦人參政權問題の提出される樣になつたのは當然で決して偶然ではムいません。十數年前に普選運動の盛な時に婦人參政權を叫んだ婦人があつた樣に、今日又普選の聲の盛んなるにつけ、一方に婦人參政權を叫ぶのは自然で、歷史は凡てその通り繰り返しつゝ一步一步進んで行くのでムいます。

私は男子の花柳病問題、結婚前に診斷書を取交はさ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

なければならぬと云ふ事も、大正二三年頃から頻りに申して參りました。それが今度いよ〳〵請願運動として開始されたのは喜ばしい事だと思います。本誌の讀者は度々御覽下さいました通り、これは國民の健康上殊に婦人の終生の幸不幸の出發點でムいます。

私が職業婦人の寄宿舍の必要を感じて、青葉の舍を設立いたしましたのは、一昨年の春の事でムいます。其の動機は私が婦人の職業をお世話したり方々で職業婦人に接する關係上、職業婦人が獨りで自炊して居りまするど不規則になり、不衛生になり勝ちで、從て腸チブスや腹膜炎を起して若い丈夫な人が一人ならず二人も三人まで死にました（それも私の極手近にありました人で）それで私は職業婦人は、家庭を離れて獨りゐると云ふ事は、實に危險な事だ。孤獨寂莫に堪えられない處から、誘惑され易い立場にあつて道德上の保護を要する上から云つても、精神的に堅實な團欒生活をする事の大切な事は云ふまでもないが、健康上からも必要な事だと思つたからでムいます。

處が其の頃から家の拂底で思ふ樣に出來ませんでしたが、それでも必要に迫られて、一週間或は一ケ月と一人づゝの人は世話して居りましたが、狹い個人の家では設備もなくお互に不便ですから、今後は私の知人で高師を出て多年敎育にも經驗があり、今は下宿旅館の營業者でゐられる大變安心で便利な方に委托する事にしやうと思つて居ります。若し、家屋丈け提供して下さる人があれば、食費の實費丈けで、自由に樂しく起居して、氣安い高潔な一大ホームをする事が出來るのでムいます。

なか〳〵骨が折れて

然るに一面では、何いろ〳〵の事をしてもそれほど大した効果は納められないと云ふ人があります。成程二三の發起する人丈けあつても、効果はおさめられません。

普選でも十年も十五年も前に喧ましく云つた人があつて、やつと此頃その効果が現はれた樣なものです。婦人參政權にしても何にしても、個々、別々の各婦人

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

の自覺をまつて、初めて其効果は現はれるのでムいます。

それを何か始めると「それは結構だけれどどれ丈けの効果があるか」と嘲笑する人がある。又何の効果もないのを見て「それ見た事か」と云ふ人があります。けれども、それはするもの丶罪でも力の足らぬ爲めでもありません。まだ、一般の婦人に自覺のない證據です。

私がこんな一寸した會をいたしますにも、なかく骨が折れて思ふ樣に參らないのでムいました。私が悲觀して居りますと、或婦人は私を慰めて下さいました「それは貴女の罪ではない、婦人に限らず男子も一般に今日勢力あるもの丶主催で、名譽とか報酬を得らる丶處へは、自己の主義主張とは異なつてゐても、加勢に行かうと云ふのが、今日の時代思潮です、いくら小さくても主義に賛成ならば加勢しやうと云ふ樣な氣風に乏しいのですから」と。

私はそれを訊いて、それも一理ある辭ですが、そんなに富が思想を支配してゐる樣な事では到底駄目だと思います。思想に一大權威があつて、思想そのものが獨立して、富を支配する樣にならなくつては立派な運動も何も出來るものではないと思いました。

前置きが大分長引きました、これから本論に入りましやう。

立派な社會問題

婦人の働き場處は家庭である、婦人は家庭を基礎にして出立しなければならぬと云ふ事は昔も今もこれからも同じ事でムいます。古い人も新らしい人もそれに異論のある筈はありませんが、其の解釋のしやうが大に異ならうと思います。

例へば昔ならば、一家經濟、しかも婦人は消費經濟をしてゐればよかつたものが、今日の如く物價騰貴しては、只少々の儉約をして貯蓄をしてゐればいゝと云ふわけには參りません。同じ物を買ふにも購買組合がいゝか、公設市場がいゝか、研究するとか。中流以下の家庭では消費經濟のみでなく主婦も少しでも收入を

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

得る道を講せねばならぬと云ふ様なものです。

まだそれでも婦人はそんな餘計な事をしなくても家政を見てゐればいゝと云ふ人がないとも限りますまいが、水一つでも井戸水を使つてゐた時代には水は一個の家庭問題だつたのですが、今日の如く水道となれば鐵管一つで社會全體と連なつてゐて、今迄の單なる家庭問題であつた水は乃ち立派な社會問題です今迄の石油、薪炭、いづれも電氣、瓦斯となつては一條の鐵管一筋の電線で社會全體と連なつてゐます。即ち臺所問題も立派な社會問題です。かう考へてみれば、如何に迂濶な人でも「婦人の仕事は家庭内にあり」と云つて社會問題には關係がないと云ふことは出來ますまい。其の他子女教育にしても凡て今迄の家庭内で働いてゐた事そのまゝを、社會に應用すると云ふまでの事です

女中問題

同じく家政を取るにも大變變つて來ました。早い話が昔は三圓か五圓で女中がいくらも盆りましたから、臺所仕事は女中委せでもよかつたのですが、今日は女中拂底で十圓出してもおいそれとはない、其の上食料が二十圓もかゝりますから、女中一人に三十圓出しておくと云ふ事は、昔ならは百圓の月給取の家庭では女中を二三人置けたものが、今日では二百圓でも一人さへむづかしいのです。一體日本ではあまり從來勞銀が安かつたのでソンナに仕事のない家でも一人や二人の女中は遊ばしておけたのですが、アメリカなどでは、日本の二千圓の收入は彼方の二千八百圓に相當すると云ふ事ですが、其二千八百圓はおろか一萬圓以上の收入ある家でさへ女中を使はないと云ふ事です。(それには毎日御飯をたく代りに、大きなパンやから一時に燒いたパンを配達すると云ふ様な關係もありますが)日本でも商賣をしてゐるとか、何かを製作する爲めの雇人と云ふのは別として、只取次や給仕や云はゞ體裁の爲めに女中をおくと云ふ様な事は今に全く出來なくなりましやう。又女中から見ると、工場等では仕事はつらくても、朋友同志で鼻唄歌ひながら働き、周圍の人も監督だの、事務員だと云つても、會社から見れば同

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

じ使用人ですから、女工生活は氣樂な樣に思はれるのに、家庭の女中は朝から晩まで主人持ちと云ふ、何となく氣づまりな處がある、で個性がだん／＼發達して來れば來るほど女中に來手はなくなります。女中部屋があつて氣樂に勉強でもする事の出來る家は兎に角、中流以下の狹い家庭ではよしんば經濟上は困らなくつても、容易に女中は得られない事になつて參ります。

家屋の改良

女中が容易に得がたくなるとすると、第一番に家屋の改良が必要になつて參ります。日本の家屋位不經濟な贅澤なものはありません。立派な家は立派な樣に、汚ない家は汚ないながら、臺所でも廊下でも鏡の樣に磨いてありますが、私は友人と或友達の家に參りました時、友人の「どうしてお廊下を御拭きになりますか」と云ふ問ひに友達は「手拭を八筋用意しまして、其各々の片方をお湯でかたくしぼつてふきまして、片一方の乾いた方で、又ふきますと丁度磨きをかけた事になります。そうして八筋共拭ひて了つてから、コナ石鹼を解かしたお湯で一時に洗ひます、でないと同じ雜巾でしぼつては拭き、しぼつては拭きしては丁度ごみを拭き込む事になりますから」と云はれました。廣い家屋をかうして居りましては、たとへ女中にさせると云つても主婦も道具やら床の間などのふき掃除があり、何一つする暇のないのは尤もです。それが朝一度や朝夕二度の掃除位では追つきません。吾々の樣な狹い汚ない家は尙更少し油斷をしてゐると、すぐ足の踏場もない樣になつて了ふのです。で私はどうしても家は西洋建の樣にスリッパで歩く事にして、大したごみがなければ、廊下は鏡の樣でなくてもよい事にし、食事は卓でし、寢臺に寢ると云ふ風にありたいと思ひます
森本博士の日米最少生活費の比較と云ふのを見ますと、

米	二千八百七十圓	日本	二千七十六圓
食	四十三パーセント		三十五パーセント
衣	十五パーセント		十パーセント
家	十二パーセント		十七パーセント
雜	三十パーセント		三十八パーセント

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

衣服は日本人は澤山度々買ふ様ですけれど、やりくりしたりつぎはぎして何度も使ふので彼より安くつくし、食物は粗末なものを食べてゐるからこれも安いのです。それに家は彼は一時に金をかけるけれど堅牢なのに、日本では建てる時は安いけれど、疊替、障子張り、屋根がわら、板塀垣根が破損するので其修繕費が多くかかるから、彼より四割も多くかゝるのです。雑費の多くかゝるのは交際だとか、時を定めず來客がある度に御馳走したり、だらしなく生活をしてゐる證據です。

人の手間の安かつた時は、安いもので度々手をかけてもよかつたでしやうが、此の頃の様に物價の高い上に勞銀が高くなつては、それでは手間賃と品物と二重の不經濟になるわけです。で一時は高くても持久力の強いものが一番經濟になるわけです。

家にしても衣服にしても洋風と云ふ事は昔は贅澤だつたのですが、今日では經濟的です實用向です。

さうかと云つて、吾々無産階級のものが家屋を建築すると云ふ事は容易ではありません。日常生活を儉約し、成丈け消費しないと云ふ事は、個人道徳で厶いましやうが、家を建てると云ふ様な事は到底不可能です。

で私は富家が出金するなり、政府が公債を募集するなりしてかの海上ビルデングの様な建築をして金利で貸すと云ふ事にすれば随分安くて貸せるわけだと思ひます。そうして湯も水もスチームも自由自在に出ると云ふ事であれば家毎に女中がなくつても、數十戸に一人或は一家族の小使か受附で間に合います。電話も一つあればいゝ事になります。

一戸一戸別々にあつた家屋に住み馴れた大家族のものが、今急にさうした貸事務室の様な家に移り住むと云ふ事は難かしくても、夫婦二人切りの簡單な中に住み馴れて、そこへだん／＼小供が出來れば、わけなく馴らされます。

又急にさう云ふ建築が出來ないとしても、國民に必須な家の様なものを、拂底につけ込んで無暗に價上げ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

させ、個人の營利事業としておくと云ふ法はありません。湯屋の一錢二錢の値上でさへ國民の衞生に影響を及ぼすと云つて容易に許さなかつた警視廳としては、裏長屋で六圓の家にゐる人に、無理に出て行つて欲しい新らしい人に十五圓に貸せるからと云ふ亂暴な家主が御座います。それでもどんな家でも與へられてゐるものはまだよいと云はなければなりません。外國や地方へ行つてゐた人が歸つて來て、家を定めてから家族を呼ぼうと思つて、もうかれこれ一年近くなるに家がないと云ふ人も厶います。

幼稚園托兒所

家屋が改造され、鍵一つで外出が出來る樣になればやれ留守番だの、戸締りだの盜賊の心配もなく、又家庭內の仕事もずつと減りますから、仕事の能率がどれ丈け增加されるか知れません。共稼ぎをする必要ある主婦は容易に出られます。

で托兒所幼稚園の必要が生じます。今日でもあるにはありますけれど、さう至る所にあると云ふわけではありませんから、所によつては一里も二里も行かなければないが、そんなに遠方へつれて行くわけには行きません。もつと至る所に出來なければなりません。それは子供は子供の親が見るに勝つた事はありませんが經濟上止むを得ぬ家庭や、母親がなくて、父親が勤めに出なければならぬ家、或は父親がなくて母親が父親の代りに働かなければならぬ事情やいろ〳〵幼稚園、托兒所を必要とする場合はあります。然かしそれを今急に澤山の托兒所をこしらへると云ふ事も出來ませんから、自家の子供を見ながら、少し位の內職をするよりは、他家の子供を一しよに見て上げやうと云ふ婦人が出て來れば大變便利で助かるわけです。

頭腦の改造

女中問題と云ひ、家屋の改良と云ひ其他托兒所にしても、完全に解決されるにはまだ日の遠い事で厶いましやう。併し婦人の頭腦が改造されゝば凡ての改造を促進する事も出來、又たとへ急に改造されなくとも、其生活の內容を改ためる事は容易で厶います。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

例へば廊下はスリッパで歩く事にして、さう鏡の様に光らせなくても大してごみがなければよいとするとか、三度々々の食事にしても簡單にする事が出來ますお正月の三ケ日の様に緊張して掃除をしておいたり、少し暇のある時に御馳走をしておけば從來の様に毎日毎日一日中ダラ〳〵と掃除と炊事とにかゝつてゐなくてもいゝ事になり、自然女中がなくつても隨分社會的にも働く暇が出來、自分としても勉强する時間は見出されます。こんな事は女自身が考へて改良しなければ男の人は從來の如く婦人一人を犧牲にし習慣通りの生活がしてゐられゝば心持もよく大した不便を感じないのですから、婦人は本當に眞劍に考へなければなりません。そんな事は女中がするからいゝと云ふ人があるかも知れませんが、女中もやはり同性婦人ですから一般婦人の生活の爲めに大に考へたいと思ひます。國家社會經濟から云つてもさう云ふ不生産的の事に多くの婦人の時間を費やさすよりは、何か生産的有益な事に働かれる樣にしたいものです。

又幼稚園や托兒所がなくても、五軒なり三軒なりの隣近處の人々が、理解し合ひさへすれば、今日は止むを得ない事があるから一寸御願しますと云つて出る事も出來、頼まれる方でも報酬を一定しておけば、氣兼ねをしたり、一寸留守を頼んだのに大したものを買つて來て御禮をし、其又御禮に御禮をしなければならぬと云ふ樣な無駄もなく、萬事をビジネス的にすれば感情を惡くすると云ふ樣な事もなくてよろしい。

で凡て婦人の頭腦の改造が根本です。

精神的社會問題

以上は主として物質的方面の事を申しましたが、精神的方面で社會問題として考へなければならぬ事がどれ丈けあるか、これ又分りません。

君子は危きに近よらずとか、其の獨りを愼しむとか申しましても、其の周圍の空氣がどれ丈恐ろしい力を以つてゐるものでムいましやう。で婦人がどんなに夫を子女を安全に守つて行かうとしても、社會が腐敗して居りましたら忽ち同僚に交際だと云つて誘はれ、友

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

達に惡い所につれ出される危險が厶います。放蕩をする人も、惡事を働く人も、他人だと思へばこそ何とも思つてゐない樣なものですが、其の手が最愛の子女や夫に及ぶと思ふたら恐ろしい事では厶いませんか。で禁酒運動、花柳病撲滅、平和運動とか公娼廢止等どれ丈けしなければならぬ仕事があるか分りません。

自己の責任

「何そんな事は私共がしなくても、歷々の人達がして吳れるから」と云ふ人があるかも知れませんが、そう云ふ考へが最も惡いと思ひます。歷々の人が自働車を乘り廻せば出來ると云ふものではない、凡ての事は熱心にまたなければなりません。自己の境遇上最も感激した事には誰でも最も力の込められるものです。酒飲の夫に困り拔いた婦人が禁酒運動に効を奏すると云ふ樣なものですから、私は宿縁によつて婦人各自が自己の責任だ、と考へて立たなければならぬと思います。

と云ふ名義を殊に私のつけた心持ちは、社會問題を取扱かふにしても、婦人ならば、小供の問題、食料問題、衞生育兒敎育に就て、自然論議するに至るからです。

歐米でも戰時に戰爭に勝つには臺所にありと云つて婦人が食物の節約を說き廻つて大に功を奏した樣に、又只今の露國の過激派政府の下に於てと雖も、婦人は忘れられたる小供と婦人の世話をして居ります樣に、社會問題と云つても、つまり今迄婦人が一家でしてゐた事を、押し廣めて、家庭內丈であつた事をもう少し廣い意味の家庭である社會に及ぼすと云ふまでだからです。

婦人の力

婦人の方が物事をするのに徹底的に出來る。私は婦人の方が確かに偉いと思ふ。偉いと云ふのは學問があるとか、財力があるとか云ふのではない。徹底的であると云ふのです。それはどこから來てゐるかと申しますと、婦人は死の苦しみに勝る生みの苦しみを度々經

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

驗してゐるからです。經驗しない人も其の運命と本能とを持つてゐる。そこから人生に對する態度の眞劍さは男子より遙かに强いのです。平和運動にしても婦人は自己の死の苦しみをして生んだ子供を保護したいと云ふ本能から、廣く及ぼして人の子を殺すには耐えられない。

戰爭に對する平和運動ばかりではない。平時の社會に於ても、かく競爭がはげしく、生活難に脅やかされる樣では、可弱い自分の子供が大人になつてからよく生存して行かれるかを危む所から、社會を安全にしやうと思ふのです。

婦人は凡てを人道化

するのです。今度の大戰によつて歐洲の婦人も「婦人は凡てのものを人道化する」と云ふ事を學んだと云ふ事ですが、私も確かに婦人の使命はそこにあると思ひます。婦人は凡てをヒユマナイズして行かうとする處から、例へ政治に關係しても、社會問題を論じても男子ならば野心の爲めに、名譽心の爲めに、黄金の爲めにする事も、純眞な婦人にあつてはそれ等よりも尤も人道的神精から多くするに違いないと思ひます。「政治即生活」で國民の生活を安全にすると云ふ事を他にして、政治と云ふものがありましやうか。政黨政派の爭それ自身を政治と思つてゐる樣な政治家はなくもがなです。

其の點から云つても是非婦人は社會問題に關係しなければならぬのです。

或美術家の話

或美術家曰く「私は何時も善い繪をかきかけ、惡い繪を仕上げつゝあり」と。獨り此の美術家ばかりでなく、大槪な人には、此の樣な感じがある樣であります。

誰れしも「之れは」と思はれば。ドンナ仕事にだつて着手するものではありません。併し着手の後は、段々イヤになつて來て、仕上げに近い頃には、何ぜコンナ仕事に手をつけたかと後悔するものであります。

此の心理作用を承知して居て、一旦着手した仕事は中途で放棄するな、但し其の仕事が道德的に害へて、惡い仕事であることを發見した場合は別であるが………。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

眞の婦人解放

本田増次郎

私は眞の婦人解放に就てお話致したいのであるが、それには先づ、世の所謂**婦人解放の叫び**が、どうして叫ばるゝに至つたかからお話をせねばならぬ。而して其のお話をするには、更に溯りて「婦人の解放が必要となる樣な社會狀態は、どうして出來たか」から調べて見ねばならぬ。

獨佛兩國では、普佛戰爭後徵兵制度を敷き、若かき男子を都會に集めて置くこととなつたので、良家の妻女を保護する趣意から賣笑婦を置くことにした。それが婦人の地位を以前より低からしむる第一の原因である。

獨佛兩國に於ても、近世になつてから、工業の發達につれて都會は膨脹し、段々により多く田舍の娘達が、都會に吸收さるゝこととなり。其の結果、或は誘惑され若しくば金に困る所から操を賣るものが增へて來た。之れが以前よりも婦人の地位を低からしむる第二の原因である。

獨乙では、此の外に、カイゼルは伯林、其他獨逸の都會へも世界の旅行者を吸收したいとの考へから、巴里の如く、此等の都市に美しい女を置くことにしたことからと。開戰後人間を增やしたい考へから軍人の妻君達に姦淫を强制したことから、婦人は墮落をさせられた。

佛蘭西に於ては、講和期になつてからも、喪服をつけてる婦人で賣笑婦となれるものがザラにあると云ふ有樣であつた。此の中には勿論、生存の必要上からする氣の毒な人達もあるが、たゞ其の生活の標準を下げた

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

くないとの心から、斯かる行爲をするものもあつた。大戰がドンナに婦人を墮落せしむるの機會であつたかゞ之れでも分る。

佛蘭西でも近頃は、場合によりては法律上離婚は許さるゝことになつたが、併し永い間の習慣の勢力がナカ〳〵に強よく、實際にはナカ〳〵離婚が出來ぬ。それで、女は娘時代には操を守るが、一旦妻となると節操を守らぬ。男子は又面倒な正式結婚をイヤがり、立派な紳士までが妾を置くと云ふ風になつて來た。

英　國

に就て云へば、同國の婦人の地位が段々低くなるに至りし第一の原因は、其の工業の發達と、其の領地の廣くなるにつれて、英國の男子で、單身殖民地へ赴くもの續出し、本國では女子の數、男子の數よりも少なくなつて、結婚の機會を失ふ婦人の多くなつて來たことである。

第二の原因は、高等教育をすゝめた爲めに、女子が子を產み、育てることを愧づるに至つたことである。

第三の原因は、表面上の獨身生活をする男女の增加して來たことである。

第四の原因は、獨佛に於ての如く、既に結婚したものゝ、家族を制限しつゝあることである。

第五の原因は、賣笑婦の多いことである。

第六の原因は、所謂文明の生活の不自然である所から男女共に肉體的に墮落しつゝあることである。

第七の原因は、自活せる女子の得る俸給の低いことである。

第八の原因は、經濟結婚の增加しつゝあることである（女は一人で居ては食へぬからとて結婚し、男は又金持の娘と結婚したがる、之れを經濟結婚と云ふ）。

此等の原因が高なりて、正當なる道德的地位に立つことの出來ない、婦人の數を多からしめつゝあるのである。

米　國

が世界一の女尊國であるのは、最初殖民地のことゝて男に比し女の數が甚しく少なかつた爲めから原因して

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

來て居るのである。併し同國に於ても、第一には、男が金儲に忙しくて、心を研く時間の少なきに反し、女は終日讀書したり、講演を聞いたりして居るので、夕飯の時に一緒になつても夫婦の話が合はない。そこで夕飯をそこ〳〵に濟ませて、男は男の倶樂部へ、女は女の倶樂部へ遊びに行く。其の樣な次第から家庭は破滅に近づき、婦人の位地は向下しつゝあるのである。

第二には、米國は、其の反動で今は禁酒國になつたが今までは同國は世界一の飮酒國であつたのである、之れが又婦人の位地を向下せしむる原因となつたものである。

第三には自活せる婦人が、收入の少ない所から墮落する。

國によりて多少事情は違へど、大凡、右の如き諸原因から、婦人の地位が段々向下するに至つたので、斯かる社會狀態から婦人を救はねばならぬとて、婦人解放論が叫ばるゝに至つたものである。併し今の所謂解放論は、

眞の婦人解放

であらうか、どうか。

チエスタアトンの書いたものゝ中に、

近頃世の中に、婦人に修養の時間を與へる爲めに、共同臺所を拵へ、婦人を臺所より解放せよとの論がある。之れが實行されたら勞働婦人には或は便利ならんも、一般の婦人に對しては、开は解放にも何んにもならない。婦人は物を氣にせねば居られぬのであつて、物を氣にするのが婦人の天性である。婦人が衣食其他のことに毎日苦勞して、親の爲め、子の爲め、夫の爲めに盡して居るのは、一見最大の苦痛の如く見ゆるも、其の實之れは婦人にとりての最大樂事なのである。

とあるが、私は之れは明言であると思ふ。

私も誤れる婦人解放は、婦人を反て不幸ならしむるものと考へる。眞の解放は、

智的文明の弊から、男女を救ひ出して、吾々の靈の働きを盛ならしむることでなくてはならない。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

讀滴涓書（三）

東大寺太代

二月の雜誌も二三讀んだが、「人間」一月倍大號の田中純氏の厩舍の悲劇がすぐれたものと思つたので、私はそれを再讀して紹介することにしました。

厩舍の悲劇は一幕物である。舞臺は退職陸軍大佐內田武彥の宏壯なる邸內の一部とあります。

舞臺上手に內田家臺所の入口あり、下手に厩舍兼馬丁部屋がある、時は午後の三時頃、幕が開くと、岸本よし（これは武彥の長女で今は內田家の女中として働いてゐる、三十才）が純然たるおさんどんの服裝で米を磨いでゐる。よしの動作にはどこまでも陰鬱な影がある。いかにも悲劇の女主人らしくある。

主人武彥は六十二三才、軍人型の思想の持主で、よく悲劇を成育せしめたらしい一種の――とはいへありふれた人物らしい――。

よしに一子がある完一といふ。十二位、內では女中の子として、外では內田家の愛孫なるべきに係らず、一馬丁の子だといふ嘲罵をあびせられつゝあるといふ不良兒、この臺所女中である母親の盲愛の他にはたゞの一人からも愛せられた事のない完一は、終に隣家の不用意を見計つて日中、支那鞄を盜み來る、そしてそれを所謂罪惡の巢窟である所の、厩舍へ隱し去る。

武彥は本心にない憎惡を、よし完一の額にやきつけつゝあるが、そうした不自然な感情には最早長く堪へ難くなり、夜な夜なこの厩舍へ忍び來つて啜り泣くのであつた。（それを長男の勇三は知つてゐた）而も武彥の憂悶苦惱は、まさに其極に達し、馬丁金造の住んでゐた、そして自身の生命に代へてもと思ひ育てゝ來たよしとの間に不義の行はれた其厩舍を目擊するに堪へ

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ず、今之を毀たしめやうと御用商人を呼んだのであつた。

武彦「それでは完一の父親も知つてゐるかい」

男三「馬丁の金造でせう、憶えてゐますとも……」

武彦「もう止せ！あんな不埒な奴等のことは俺は聞くのも厭だ。」

男三「しかし、何故不埒なのでせう、善良で親切だつたあの金造が何故不埒なのでせう」

武彦「貴様は何を言ふのだ、良家の娘を堕落させて置いて、それで不埒でないか。」

男三「それは、なるほど、陸軍大佐の愛娘と馬丁との戀は、世間に珍らしい戀であるかも知れません。然し、それだからといつてそれが不埒の、不道徳だのと云ふ理由は何處にあるんでせう。」

武彦「貴様はいつの間に社會主義になつた？」

男三「僕が社會主義か社會主義でないかは、僕にも解りません。然し、僕の人間らしい感情は、僕にそう考へさせるんです。」

武彦「人間らしい感情？そんな人間らしい感情が何處にある？鳥獣にも劣る行ひを許せるやうな感情は、まともな人間には持ち合せがないよ。」

男三（なだめるやうに）「お父さん、その鳥獣にも劣る行ひをした金造は、同時にお父さんの恩人ぢやありませんか。黒溝臺の戰ひの時に、生命の的となつてお父様を救つて呉れたのは誰です。お父様の爲に、ピストルの彈丸を受けて呉れた　のは誰です？」

武彦「………」

男三「お父様、僕は今でもはつきり憶えてゐます。お父様の凱旋なすつた時の、あのお祝ひの晩に、お父様が僕たちに何と仰言つたか、僕はよく憶えてゐます。金造のやうなもの丶、世に知られない無數の誠忠があればこそ、日本はこの戰ひに勝つたのだとそう仰言つたぢやありませんか。金造一人の誠忠は、大山元帥や東郷大將のそれに劣らないほどの力で、日本の危機を救つて呉れたのだと、仰言つたぢやありませんか。

武彦「然しそれとこれとは別物だ、金造にいくら勳功が

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

あつたとて、それで彼奴等の不義が帳消しになる譯はない。勳功は勳功、不義は不義だ。

勇三『ところが、姉さんの場合では、それが別物でなかつたのです。金造の勳功が姉さんに不義をさせたのです。いや本統を言へば、二人に不義をさせたものは、――お父さんなんです。

武彦『なに？俺が不義をさせた？そんな無法がどうして言へる？』

勇三『いや、決して無法ではありません。お父様はまだあの晩のお父さんのお言葉がどれほど強く僕だちを動かしたかを御存知ないのです。幸か不幸か僕達は子供の時から、妙にもの〻裏を見たり、もの〻眞相を見きはめやうとする心持を、お父さん達から授けられてゐたのです。だから金造が日本を救つたのだと言はれた時には、お父様には多少誇張があつたかも知れないが僕達はまともに、それを信じたのです。僕達は、東郷大將にもまさる英雄だと思つてゐました。而も不思議に金造には、僕達にそう思はせる人德がありました。なにしろ、其頃まだ十か十一の子供だつた僕でさへ、一生涯のもの〻考へ方を決めさせられる程の感銘を受けたんですもの、あの姉がどんな心持になつたかは、お父様にだつて解ることだと思ひます。』

武彦（苦笑して）『お前の長つたらしい說敎は謹んで拜聽したよ。しかしたとひ金造が、日本一の英雄であるにしても、それが彼奴の犯した不義と何の關係がある？金造の勳功を勳功として稱揚した代りに、彼奴の不義を不義として罰したまでだ、それに何の不服がある。』

勇三『なるほど、金造はそれで濟むかも知れません。しかし姉さんはどうなるのです、姉さんの子の完一は何うなるのです。』

武彦（嘲るやうに）『何うなるものか、奴等は當然の酬いを受けてるのだ。當然とも言へない酬いを受けてるのだ。あの不義者を、女中として使つてやるだけでも、分に過ぎた酬いぢやないか。』

勇三（少し感傷的になつて）『ではお父様は何の罪もない僕達にまで、其報いを受けろと仰言るんですか。』

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

武彦「お前達が？お前達が何故其酬いを受けるんだ。」

勇三「お父さん！お父さんは何故僕達の此苦しみを察して下さらないのです。成程姉さんの爲た事は、或はお父樣には許し難い罪であつたかも知れません。然しそれにしても、姉さんは姉さんです。僕達の血を分けた姉です。其姉を、何うして女中だと思へるでせう、其姉の子を、何うして路傍の子と思へるでせう。何にも知らない妹達が、現在の姉を無慈悲に使つてゐるのを見てさへ、僕は身を切られるやうな思ひがします。あゝ僕は其爲に、どんなに長い間苦んだでせう」(泣かせる)

武彦「それはね、お前の考へがしつかりしてゐないからだよ。お前の心に誇がないからだよ。」

勇三(それには無頓着に)「それにあの完一は何うなるのです。まるで大人のやうにひねくれて、いぢけて、あの樣子がお父樣には解らないのです。子供らしい自然な所は少しもないぢやありませんか。」

武彦「それは俺にもよく解つてゐる。あの子に何の罪もないことも解つて居る。然し、仕方がないよ。あれがあの子の運命だよ。」

勇三「運命ですつて？否、あれは運命ぢやありません、運命とはもつと自然なものです、自然が導いて行つて呉れるものです。然し完一のは、吾々が自然を曲げてるのです、自然の發達を蔽つてゐるのです。お父さん後生だから完一をもつと可愛がつてやつて下さい。」

武彦(次第に引き入れられて)「いや俺にもあの子が可愛くないのではない、あの子が可愛いゝからこそ、俺はこれほど苦しんで來たのだ、苦しんでゐるのだ。――

やがて御用商人が來る、武彦は「至急厩舍を取拂つて呉れ」と言ふ、其間に完一が登場、心配そうに舞臺の話を聞いてゐる。そこへまた近所の盜難事件に關して刑事が登場する、そして職業的の鋭さで、完一の隱しておいた鞄を持ち出し、完一を警察に連れ來るやう言ひ置いて去る。一同石の樣に突立つてゐる。「この厩舍がまた罪を生んだか」と武彦はいふ。よし子は漸く勇三に支へられてゐたがこの時靜に泣き出す。そこへ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

近所の若者が飛び込んで來て「坊ちやんが川へ飛び込んだと注進する。よし子地上に號泣する。
男三「お父さんの不自然が、又人を一人殺しましたね」といつて幕。――

かうした粘り強い文章が魅力を有て、讀むものゝ心をグン〳〵引つ張つていきます。それは洗練された、そして熱のある鋭利なものとはいへないかもしれません長男勇三がそれほど思ひせまつてゐるにも係らず、それだけに胸を引緊められるといふ所へはゆかないけれども、何と言つたらいゝでせうか？一種のフレッシユな香に滿ちた、そして靜かな、平野を流れる河流のやうな、岸に立つ素朴な地方の女達にも、なほある哀しみが聽取れるやうな藝術味に富んだ作品だと思惟ました。もう一つは矢張り同じ「人間」の生命の冠といふ三幕物でムいます。これも純粋な態度と技巧を以て書かれたよいものだと思ひました、がもう紙數もつきたので、たゞそういふよいものがあつたといふ事だけを記しておくことに致しませう。（一月五日）

何故夫を理解出來ぬか

成女女學校長　宮田修

高女を卒へた女子に尚ほ高等の教育をすると云ふ事と、結婚すると云ふ事とは、決して矛盾しない。高女後二三年勉強してからで婚期に遲れないのみならず、それ位でなくては家政がとれないから、貰ふ方もそれを望んでゐる。高女丈けで結婚した樣な婦人からよく夫がつかめなくて困ると云ふ訴を訊きます。夫は極理解あるよい人で、會社への勤務外は外出しないし、小供も二三人あるが、どうもしつくりしない、それは何が故か分らなかつたが、どうも學問の不足から話せないのだと云ふ事が氣づいたから、幸、夫の洋行中學校に入りたいが何處がいゝか、又それまで讀書するのに何がよいかと云ふ問を受けた事があります。

今後は益々必らず平等の時代が來る、男女共同樣に進まねばならぬ、その代り權利もあれば責任も分たねばならぬ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

このごろ

張谷喜代

「おかつさ……ん」高い聲で彼女は呼んだ。何の返事もない。「おかつさ……ん」もう一度呼んだ。彼女は左の手首のところを右の手でしつかり握つて上草履の後の方をハタバタと打ちつけながら長い廊下をかけ出した。中程まで來てぴつたり止まつた。

「おかつさん」靜かな調子で呼んだ。しかし何の返事もない。居ないのかしら、彼女はそこにある患者用の長椅子に腰かけた。

彼女は體を斜にねぢつてじつと外を見てゐた。美しく紅葉した柿の葉ももうあらかた散りつくして、まばらまばらに殘る幾枚かの葉が夕日に輝いてゐるある日だつた。

兩手を身八ツ口のところから懷中へ入れて、ぼんやりと板塀越しに往來する人を見つめてゐた勝子は、思ひ付いた樣に机の前に坐つた。新纂看護婦學を取り上げて、中程を開いた。

第二項　看護上に必要なる衞生事項

第一節　病室の整理

病室内の井然たる整理は、看護婦たるものの一要務にして　左に緊要なる諸點を指摘す可し　實に、病室を一見して看護婦の技倆如何を窺ふを得可し。

勝子は小さな聲を立てゝこゝまで讀んできた讀んでゐた聲がぴつたりと止んだかと思ふと、心配さうに顏をしかめてページをくつてゐた。

がじがじ……がじがじ、入口の鍵のところで音がする

「どなた」

「私よ」

勝子は鍵をはづして明けてやつた。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「あらかよ子さんですか」
「あのね私今ころんで、こゝ痛くしたのよ、何でもいゝからつけて下さいよ、しみるものではいやよ。痛いんですもの」彼の女は右の手を、そつとはなした。勝子はのぞき込むと同時に、
「まあどうして」と言つた。
「私ね高下駄でかけてあるいたから、緒が切れてころんだのよ。」
勝子は硼酸軟膏と繃帶とを持つて來た。繃帶を巻き終つてから、彼女は「ありがたう」と言つてまたバタバタとかけだした。
勝子はまた自分たちの室へ入つて戸棚の前へ寄りかかつて考へ込んでゐた。
勝子は今から丁度五年前十五の時にこのお醫者の家へ來た。そうして產婆の講義を聽ゐて勉强してゐた。去年試驗を受けて、學說の方も實地も受つた。其後勝子は看護婦の方を勉强してゐた。朝も早く起きて雨戶の外へ出て勉强してゐた。
勝子は田舍の或る農家の娘だつた。非常に眞面目な女で、問はれた事より外に他の事は言はない極めて口數の少ない女だつた。
私は看護婦の方を勉强して早く試驗を受けて見たい。受つたら早く開業して働いて見たい。直井さんなんかもう忙しくて冬は綿のたくさん入つた着物を着て寢てゐるんださうな、たのみに來られゝばすぐ出られるやうに。
そんなになつたらさぞ面白いことだらう。私も一生懸命にして見たい。早く、早く、と大きな希望を懐いて勉强してゐたのだ。
それがこのごろ看護婦の方も實が入らないらしい、稀に見ても頭の統一を失つてゐるものらしく、あたりを見廻したり、わけもなくページをくつたりしてゐる。
泣きたいやうな、落ちつかないやうな顔をして勝子は裏座敷をそうとのぞき込んで入つてゐつた。靜かに座つた勝子は、何かためらつてゐるやうに帶止めをいぢ

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

つてゐた。が、思ひきつた樣子で「かよ子さん」と言つた。その聲はたしかに震へてゐた。婦女界の「人の罪」を見てゐた彼の女は、一寸勝子を見てから、「何か用なの」と言つた。勝子は返事をしなかつた。

「今呼んだでせう何用なの」いらただしさうに彼の女は言つた。そうしてまた前のつゞきを讀み出した。

「あのかよ子さんに聽いて頂きたいことがございますので」

「私に聽ひてもらひたいんですつて、むづかしいことでなかつたら聽ゐて上げますよ」かよ子は急にやさしい聲でかう言つた。

勝子は一寸首を曲げてまあだ帶止をいぢつてゐた。返事はなかつた。

あゝあのことだなあ。私が思つてゐたことだ。彼女は一人合點したやうに、ほゝ笑んだ。そうしてすぐ消え失せたと同時に、彼女の目は可愛想にと言つた樣な同情に充ちた目は、あまり多くはないが眞黑でふさふさとした勝子の髮のおくれ毛へ注がれた。

勝子はしばらくしてから

「私にはこゝで申されないので御ざいます後で書きまして差し上げますからどうぞ」と、頭を下げた。

「さう私どつちでもいゝの、それでは書いてね」

勝子は靜かに立つて彼女の室を出た。

「やつぱりさうだつた可愛想に」

彼女は一人呟いた。

今まで幾日かの間、一人定めては同情したりまた、疑つて見たりしてゐた西郷さんのことを考へ出した。

西郷先生が今年の春地方の專門學校を卒業してこの家へ代診として來られたのは六月の五日、丁度この家の祖母さんが亡くなる一週間前だつた、めづらしく梅雨晴の日だつた。紋つきの夏羽織を着た西郷さんが、松島の埋木細工の茶盆を手土産にして來られたのだ。

西郷さんは北の國の方で非常に質朴な飾氣のない、一寸軍人の樣にまつすぐ向いてドシンドシンと步く人で、擊劍もする、ランニングもやる、弓術もする、と云ふ運動家、どつしりとした。こせこせしたところのない

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

正直なところが、この家の主人の氣に入つてゐた。時々駈走で診察などに出かけて皆さんを笑はせるやうな快活な人だが、また、一方に非常に寂しい形の人であることは疑はれない。なせつて言ふに、西鄕さんはいつも母が母がと、おつしやる、おかあさんをたいへん慕つて入らつしやる樣子だつた。今日は命日だからと言つてはハート形の寫眞掛におかあさんの寫眞をかけて、常に勉強してゐる研究室のテーブルの上に立て小さな可愛い、一輪ざしに野菊などをさして、お線香など上げたりなんかしてゐるのだ。夜勉強する時もその寫眞を立てゐる。今時の青年にはめづらしい方だとこの家の皆んなが言つてゐた。

この西鄕さんがいつからともなく夜眠られないと言ひはぢめた。それがだんだんひどくなつて十一月頃には毎夜のやうに眠られない晩がつづいた。八時頃床に就いては十一時頃眠られないからといつて寢衣一枚になつて駈走をやる。ずいぶん遠くまで行くさうだ、はつはつしながら歸つて來て井戸端で冷水摩擦をしてこれから寢るんだと言つて室へ入つて行く。

或晩などは十一時過に、女中におにぎりをくれと言ふ

「どうするんです」と聽ひたれば、

「食べるのさあ、これからどこかへ行くんだ」とおつしやる。おにぎりを竹の皮へ包んで梅干を入れて、洋服を着て出かけた。三十分ばかりたつてから歸つて來られた。

「途中まで行つたら祖父さんが出て來たお前をきつと眠せてやるから歸れと言ふから歸つて來たのだ。」と西鄕さんは言つた。「僕は夢見てゐたのだよそれで駈廻つてゐたのだ、おかしなこともあるものだなあ」と言ふ。一時は氣が違つてゐるのではないかと思ふ位變つてゐた。

おかつさんはどんな氣なのかしら、行く氣かしら彼女は一人推察してはそんなことを考へてゐた。

夕方勝子はかよ子樣へと書いた大きな封筒を持つて來た。かよ子はやゝ薄暗いので椽側へ出て讀んだ。

かよ子樣。私は西鄕先生に結婚してくれと申されま

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

した。先生は、僕はあなたをこゝへ來た初對面のその時から思つてゐるのです。あなたは私のおつかさんに似てゐるところがあるのです。おつかさんやあなたを考へると勉強も出來ないのです。男一人をたすけると思つて聽ゐて下さい。と申すのでございます。私はこんなことは私一人ではきめられませんから家へ歸つて相談します。と言ひました。それから二日たつて家へ歸つて話しましたら家の父母は頭から怒つてゐるのです。お前は先生と不正なことをしてゐるのではないかと言ふのでございます、そんなことは必らずありません、とよく申しても同じ家に居て結婚するなんて世間の人は何と言ふかわからない、お前が勝手に行くと云ふなら、もう先生のお家からお暇を頂いて家へ歸つてお母さんの手傳をしてゐなさい。實家の父母はこんなことを云ふのですただ兄だけが賛成して居るのです。このことを先生に申し上げましたら先生は、あなたに許嫁があるならあきらめます、ないのだからあきらめられない。あなたがいやでないのならいつまでゞも待つてゐますから聽ゐて下さいと申します。私どうしたらよいので御座いませう。かよ子樣どうか敎へて下さい。と半紙へ鉛筆で細かに書いてあつた。讀み終つた彼の女は、きれいに疊んで懷中へ入れたが、若し失つて他の人たちに見られては迷惑と、取り出して机のひき出しへしまいこんだ。

どうしたらよいかと、彼の女はしばらく考へてゐた。

夜になつて彼女は手紙を書いた。

今日あなたが私のところへ來て聽ゐて下さいと申しました、あの時私は、このことであることを直感しました。さぞ心配でせう苦しいでせう、無經驗な私がお推察しますより以上に苦しくまた心配なことゝ思ひます。私はどうしたらよいのかわかりませんですから最善の方法をお敎へするとは出來ませんが、たゞ私の考としては先生に御相談したら如何ですか、それで先生から家の人たちにお話していたゞけば家の方も信じますでせう、さうした方が今のあな

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

たとしてはよいではないかと思ひますがあなたもよくよく冷靜に考へて御覽なさい。

これだけ書いて彼の女は勝子にやつた。

都にてはかなたこなたと追羽子の音ののどかに聞える初春も、この地はすべて舊暦でするところなのでまだ十一月、やうやう農家にて暇になつた位のものである。どうしてこんなに食べられるかと思ふほどたくさんふかしたお甘藷から温かさうに湯氣がたつてゐる。

「かよ子さんお甘藷いかが」

「戴きませう」彼の女は呼んだ女のところへ行つた。

「叔母さんこんなの美味しいのね」と彼女は皮のはぢけた樣なのを取り上げた。

お甘藷の皮をむきかけて彼の女は「叔母さん」と呼んだ。

「この間石炭をつけて來た荷馬車ひき死んだつてね、あれから歸りに、御存じでせうあの人をね叔母さん」

「えゝ知つてますとも、まあどうして、四十一寸越した位の男だつたね」

「自分の荷馬車にひかれたんですつて、馬をいぢめるから罰が當つたのよ、きつと、可愛想に」と彼の女は言つたが

どつちに同情してゐるのかわからない言ひ方だと彼の女は思つた。いぢめたつて死んでしまへば荷馬車ひきだつて可愛想だ。さう彼の女は呟いた。

「ほんとにね、馬を寒いところへ置いて、自分たちばかり酒を飲んで居るなんて、人間があゝして置かれるものなら、いくら主人だつて頭もたゝきたくなるでせうね」と叔母は言つた。

「叔母さんこの間新聞に出てゐましたね、馬に豆を食べさせてゐるところの寫眞、ほんとうに可愛がつてやらなければ可愛想だわ。」

「私だちもつく〲思ひますよ。こんなにつけられてさぞ重いんだらう。」と、とよが言つた。

何か面白い話でもしてゐるのか豐な笑ひ聲が八疊の方から漏れて來る。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「何がそんなにをかしいんだい、よく笑ふなあ女は」
「あら西郷先生だつて笑ふくせに」
「山羊つてつけたの誰だか御存じですか先生」
「知らないよ、一體誰がつけたんだい」
「私たちのことも蓮根だの、大根だのつてつけるからよ。」
「先生大橋さんがつけたんですよ」
「あら、おと代さんよ」と云ふ勝子の聲がはぢめて聞えた。
「誰でもまあいゝ、出かけやう」
大きな聲で四人は笑ひ出した。
「何をそんなに笑ふんだい」
「先生はよつぽどどうかして入らつしやるわね先生忘れものがありますよ」「これこれ」小さなおみねの聲が聞えた。
「これはしたり、すつかり忘れてゐた、さつきしやうと思つたんだが、面倒なものでなあ」
しばらくしてからこれでよからうと先生が出て行つた樣子。
「先生、そんなに面倒なれば、結んであるのいゝでせう」
「それよりもこゝの先生のやうにとるときに一寸ゆるめて頭からぬけばいゝわ、かよ子さんがいつもそれを解いてますよ。解かないときはあれを頭から入れて下の方の切を引くんでせう。さうすると結ぶの面倒でなくていゝわね、あれが一番輕便ですわ」
「あゝさうか僕も今度さうしやう」
それからの話は聞えないが、今までの話で推して見ると西郷さんはネクタイを忘れて入らつしつたのだ。
ネクタイ忘れて居つては患家へ入らつしつてさぞ笑はれるでせうね、叔父さんもいつか東京から歸りに、姉さんのところでお話なすつて居て巳もう歸るよと立ち上つて玄關のところまで入らつしつて私が庭に居て叔父さんネクタイはと申しましたら、おやどこへやつたらうなんて見つけて入らつしやるんですよ私が、ちやんと出して置いて上げたのに、つけなかつたんでせう

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

フロックなのですよ、カバンをあけて見ましたら、ちやんとしまつてあるんでせう蝶形の、ずいぶん笑つたわ、それからいつか眼鏡の玉なくしましてね、江の島へ行つて歸りに、東京驛から電車で來ましたの、電車の中で新聞買つて見て入らつしつたのよ、家へ歸つてから眼鏡かけましたら變なんでせう。おや玉を失してしまつた。そこへらにあるかもしれないから見つけて來なとおつしやるから私見つけに行きましたの、ありませんから歸つて來ましたら、これはきつと汽車中のどこかで失したんだらうよ、電車の中で見た時も、こんな風に見へたからとそれをかけて新聞を見て入らしつた、叔父さんはせつかちね、それで少しも着物なんかもおかまいなし」これだけ話して彼女は默してしまつた。

勝子は藥局のところで處方箋の不用なのへ何か書きながら、なぜ今日に限つてあんなこと言ふのだらう。山羊なんとつけたのは昔だわあれは夏だわ、お盆の時おとよさんが東京のお孃ちやんに、研究室の前でこゝに山羊が居ますよと言つたらお孃ちやんが開たんだわ、中から西郷先生が入らつしやいと出て來たので笑つたんだ、それを私がおみねさんやおよしさんにはなしただけなのだわ、先生は山羊の角を持つておしつころをなさるからつけられたんだわ、今日に限つて言ふんだもの、あのこと知つて居るのかしら、誰もはなす人はないし知つて居る人もない。かよ子さんだけだわ、このごろ先生のところに居てもなるべく話もしないし前よりもよそ〳〵しくしてゐるわ、あれがかへつていけないのかしら皆さんが氣づいてゐるのかしら、氣づかれてはいやだわ、また薄ら嬉しいやうな先生に望まれたと云ふことがたまらなく誇らしくも思はれて一人につことほゝ笑んだ、そうしてあたりを見まわした。

今月は少し早く原稿を締切って印刷に廻しましたので、東大寺さんの同郷人と、早川幸登子さんの電報とを後から入れる事にしましたら、頁の都合で同郷人が半端で打切られ、電報はさう〳〵のりませんでした。

社會問題講演會の皆さんのお話や、記事も全部來月號に掲載いたします。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

同郷人（二）

東大寺太代

恒子は冷えた茶碗をとりあげた。客人も何か思ひに耽つてゐるらしくみえた。子供らのゐない午前は、梨の花片の散る春の靜さとも異つて、何となく濕り氣のある森閑さであつた。

「また降つてさんじましたわ」

「おや、よく降りますことね」

鶺鴒のやうな青灰色の鳥が、殆ど坊主になりかけてゐる無花果の枝へ來た。と其處から落葉で堆く盛上つてゐる。これも疎に落葉しつくした山吹の根方へ……又其靭やかな枝へと、ひらり飛び上つたが、其時半分朽ちた無花果の大きな葉が婆娑と、同じ葉の上へ重り落ちると、小さい彼は愕然した風に、彈ね上つたかと思ふと、すいと何處かへ飛び去つて了つた。……とちよろ〱水の滾れる音が二女を微笑ませた。

「お母樣はいつ御歿れ遊しました？」

「矢張りこの楓樹の生れた歳でムいますの、十一月に參つて十二月の末に……」

「まあさいで」

離婚だの別居だのと、目角を立てゝゐる夫婦の者を双手で制し乍ら、ともかくも恒子や其孫達を一時あづけて貰へぬものかと、夫に言ひ入れた二三日の後に、ただ半日の病ひもなく歳の暮の寒い眞夜中に、誰をも呼ばず（？）誰も知らぬ暗い一間で、冷たくなつてゐたのであつた。

「お母樣お母樣、恒ですよ母さん母さん」

ふと夢か何かに驚かされて、ある魂のやうにふわり〱、母の寢所へ、恒子が出て來た時には、もう吐く息も無かつた。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「母樣母樣、お母樣よう、一言いつて頂戴な、一言、……―……わあッ」と恒子が泣聲立てたので、乳母だの老婢だのが起き出て來た。

「其時私がぶら〳〵して居つたもんですから」恒子はそう言譯することを妙に愧ぢてゐた。乍然、何度考へてみてもそれは殘念で堪らぬ事であつた。或は母は愛女の身を氣遣つて、自身の病を隱して居たのか知れない？そういふ風に解釋するのは眞に心苦しい事ではあるけれども、それでも幾分の慰めにはなるのであつた。何れにしても慈母の心遣ひを悲しく、辛く思ふのであつた。

「私は大の親不幸者なんです」

恒子は、この女客ばかりにでなく、いまだ一人の者にも言つた事のない悲しい思ひを咽喉で喰止めた。私は大の親不幸者――そう思ひ、そう言ふだけが恒子にはせめてもの心易さであつた、が今それを言ひ放つと、終に堪へ切れず、鼻と一緒に涙を押隱した。

「壽命なんなら諦めも爲ませうが、それならそれで、好きなお國の宅で、落ついて死なせてやりたう厶いましたわ、……御免遊せね、恁麼事まで申上げて……」

「いゝえ、御尤さんで厶んすわ」

「どうも失禮いたしました、初めて被入て頂いたのに……」

「……わたくし初めて會うたお方のやうな氣致しません」

五十一本の楓樹は三十本墓側へ運ばれた、それから四度轉々して其度に、三本づゝ減して來た。

「大きなあけびの籠へ、故郷の黒土を一ぱい充めて持つて來たんですの」

話頭を轉じて、もみぢの生たちを談し出すのであつたが、一度喰入つた悲しみは、母の聲音に甚だよく似たこの同郷人に對つては、堪へやうがないほど甘やかしい心持になつてゐた。それは恰度年若い女性が、赤門出などの極めて素朴な殆どぶつきら棒な若い教師の態度やすべてに、醉ふやうな心理狀態であつた、が追に恒子は自分の涙の安つぽい事に氣がついた。（未完）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

手紙の中から

▲臺灣丹下様より　其後は如何に御暮し被遊候や昨年中は一方ならぬ御厚情にあづかり難有御禮申上げ候

御地は惡性感冒流行致し候よし御宅様にては皆様御無事の御事と存じ上げ候當地も只今非常にはげしく流行致し居り候へども幸私事無事に消光致し居り候乍憚御休心被下度願上候

毎度新眞婦人御送り被下難有御かげ様にて新らしきを學び得られ感謝まかりあり候

十二月分は遂にまゐらずさびしさ此の上なく毎月々々まち遠にてたへられず候自分事は目下目の廻らんばかりにせはしき身に候へ共貴紙のまゐり候事はなかく〵の樂しみにこれあり候

年内御禮申上ぐべく心組み居り候ひしも受洗者準備クリスマス準備等にて追ひまはされ心にかゝりながら遂に今日に及び申候

別紙小爲替貳圓券甚だ些少には候へども御禮の印までにさしあげ候よろしく御取計らひ被下度願上げ候

なほ本年も御面倒様ながら御送り被下度愛讀者の一人と御ゆるし被下度願上げ候先は御年始の御祝詞ながら右用事まであら〳〵かしこ

當地の様子記し上げ度き事山々に候へども何分年賀状に追はれ心おちつかず筆廻りかね候意氣地なさ御笑ひ被下度候

御寒さい折から御身御大切にいまだ拜顔を得ず候へども西川様へよろしく願上げ候匆々かしこ

▲千葉より　御手紙におはがき有りがたう存じます、思ひながら大變な御無沙汰になりました病氣ではありませんが病氣以上の出來事が湧いて來てとう〳〵一月は何にもせずに了ひました。然しそんなぐあひでしたので雜誌だけは可なり讀みもした、二月の文世にある「狂へる友」を一月中の力作だとあつたので筆は足らなかつたけれども同じやうに感じた新眞婦人をうれしく思ふのでした、今日ともかくもと批評の方をさし上げます「同郷人　は雜誌が來てから間にあふやうに書きます、今月は貴女様がおいそがしからうと思つてあんなものを書いたのでした。よくまあ皆様御丈夫で結構です、萬々大優。（東大寺太代）

▲京都より　津々浦々まで惡性感冒の聲に實際におどろかされてゐます現今でございますいよ〳〵御發展の御様子はるかに拜して悦んでゐます御幸運の永久ならん事を祈ります。扨突然ながら私は京都府立第一高等女學校にをしへをうけ國漢專攻科を修業させて戴きました者でございます、先生の御芳名は在校當時から承はつてゐました。どうかして御敎へにあづかりたいと望んでゐましたが卒業後地方の一女敎員として薄給に甘んじて君國の爲斯界につくさんと企て幼ない子女を敎へてゐます身となりました常にいだく私の心は神聖なるべき敎育事業が暗に葬られました或不可解の謎のやうなもので明るみのあります潑溂たる元氣を持つたものでも無くいはゞ生きたる人に死んだ學問死んだ敎授をするものと思ひましたどうしても自分は敎員で立つべき素質を持つてゐないけれども生活の必要から社會に對する孤立の上から今でも不滿の生活をつゞけてゐます多忙な俗務に暇とてもありませんが自分は之を利用して有爲な仕事をしてみたい且は生計の上の助けともと思ひつきました敎職にありながら何か御役に立つ仕事はございませんか御伺ひ申し上げたいのでございます年々發行の鴨沂會誌で御芳名を見出しました私のよろこび且は先生が私がかつて女學校時代にをしへをうけました山崎千代子先生舊姓奥村すゑ先生と御同級であらせられました御様子を紙上で承はりて、これまた何かの因緣と更に〳〵私の心をそゝり立てましたので失禮とは存じながら筆とりましたおやくと申しましても私に大した事も出來ませずたゞひたすらに御をしへにあづかりたいと思ふのでございます

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

これまでから大の下手ながらに文章を讀みましたり書きましたりする事を好んでゐました貧弱な空虚な不備なお話にならぬ拙劣さではございますけれども下手の何とやらどうしても心をかへる事をゆるしませんので此處を門出としまして研究してみたいと思ふのでございます先生におすがりして御なしへにあづかりたいとおさへきれぬ心からかくは御願ひに出たのでございます何卒よろしく御導き下さいますやう御願ひいたします時分柄御身御自愛の上御さかえ遊ばしますやう御祈り申します(〇〇女史)

女子修養塾特約宿泊所

女子修養塾青葉の舍にては、かれて職業婦人の爲めに、理想的の宿泊所を設けたいとの希望ですが、どうもまだ適當な家がないので、致し方がありません。所が神田北神保町十一東陽亭、宮武はる子さんが、ソレは私の方で引受けてあげてもよろしいとのことで、渡りに船と早速そう云ふことに願ひました。宮武さん夫妻は共に教育に立派な經驗がある方で、確實で親切な方であります。就ては職業婦人で適當の宿所を求めらるる方々は、御相談下さい、尚ほ本誌の愛讀者諸姉の家族の方なり、御知人の方なりが御上京の場合には、前以て御相談下されますと、御便宜を計ります。

青葉の舍規約

一、職を求むる婦人、學資の足らぬ婦人、求職者共の他の相談に應じ、職業の周旋を爲すと共に、場合によりては一時本舍に收容保護するを以て目的とす。

二、本舍が御世話せし人々を會員とし、會員は其の目的を達せし後、本舍へ任意の感謝金を寄附すべき義務あるものとします。

三、本舍の經費は、會員の感謝金と、名譽賛助員の寄附金を以て支辨します。

四、本舍の報告は、凡て新眞婦人誌上で發表します。

青葉の舍賛助員芳名

新渡戸稲造氏　高島平三郎氏　與謝野晶子氏
吉岡彌生氏　戸野みちえ氏　宮武はる氏
東大寺太代氏　小村夏子氏　中村久六氏
中島徳太郎氏　横山幸次郎氏　古谷精一氏
石川貞吉氏　高島米峰氏　伊藤きん氏
鈴木精二氏　武居俊十郎氏　逸見斧吉氏
遠藤はつ氏　竹内茂代氏　澁澤榮一氏
中村松乃氏　小川榮一氏　森村市左衛門氏
大倉喜八郎氏　戸板せき氏　齋藤紀一氏
篠田せい氏　名生ゆき氏　長谷川屋壽氏
楢　昌三郎氏　柿花啓正氏

新眞婦人定價表(毎月一回一日發行)

一冊(郵稅共)　貳拾錢
半年分(郵稅共前金)　壹圓廿錢
一年分(郵稅共前金)　貳圓四拾錢

●新眞婦人廣告料　特別面三十圓、一等廿五圓、二等二十圓、普通面十五圓、木版を要するものは別に實費を申受くべし

大正九年二月廿八日印刷納本
大正九年三月一日發行

本郷區駒込動坂町三二七番地
發行兼編輯人及印刷人　西川文子

下谷區入谷町三百九十六番地
印刷所　博眞堂

東京市本郷區駒込動坂町三二七
新眞婦人社
郵便振替貯金口座東京二四五五六

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA